

◎第11回沖縄大会(2021)◎

1月9日(土)、日本授業UD学会沖縄支部の第11回沖縄大会が開催されました。コロナ禍にあり感染防止の観点から、今大会はzoomによる開催となりました。新年度が始まって忙しい中、遠くは北海道や東北など、全国各地の先生方に参加していただきました。

今回の沖縄大会のテーマは、『教材に「しかけ」をする意味について考える』。実践事例をふまえた沖縄支部の「しかけ」の紹介・提案とともに、桂先生にも「しかけ」についてお話いただきました。

授業のユニバーサルデザインとは

論理に気づくように
(教師が学ばせたいこと)

↓

教材に「しかけ」をする

10のしかけ

- ①順序を変える
- ②選択をつく
- ③置き換える
- ④隠す
- ⑤加える
- ⑥限定する
- ⑦分類する
- ⑧図解する
- ⑨配置する
- ⑩仮定する

○小島 哲夫先生○
講話:教材の「しかけ」について

「しかけ」とは、文章の内容や構成に違和感を作り、意図的に不安定な状態を作り出して、「教材の安定を崩す」こと。(桂 聖 2013)

小島先生は、「しかけ」の定義について説明するとともに、なぜ「しかけ」をする必要があるのか、複数の先行研究を基に、その意味についても話していました。

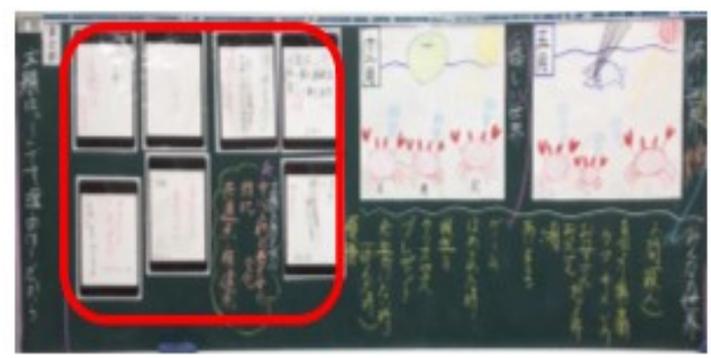
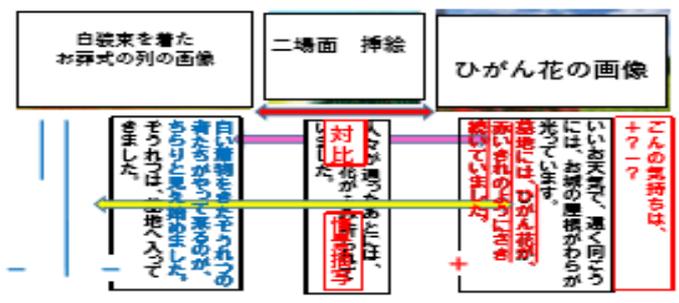
また、実践を重ねていく中で明らかになってきた「しかけ」の成果と課題について話すとともに、今後の沖縄支部で取り組んでいきたい方向についても示していました。

○幸知 佑太・大城 幹也・屋嘉比 理先生○
提案:「しかけ」の実践提案(国語授業を事例として)

沖縄支部事務局の幸知 佑太・大城 幹也・屋嘉比理先生による教材に「しかけ」を取り入れた実践の提案がありました。「しかけ」は全部で10通りありますが、どのように使うのか、何を目的として「しかけ」をするのかなど、実際の授業事例もふまえつつ提案しました。

幸知先生は、「筆者の事例選択の意図」をとらえさせることを目的として「仮定する」。大城先生は、「情景描写」をとらえさせるために「隠す」。さらに、屋嘉比先生は、主題をとらえさせることを目的として「選択する」。

提案では、それぞれの「しかけ」の効果と課題についても話していましたが、沖縄支部一同、今後も「しかけ」の実践に磨きをかけ、よりよい授業を目指していきたいと思います。



○桂 聖 先生○

講話：国語授業のユニバーサルデザイン —「教材のしかけ」の作り方—

国語授業のユニバーサルデザインとは、「学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、全員の子どもが、楽しく『わかる・できる』ように工夫・配慮された通常学級における国語授業のデザイン」。(桂 聖 2011) それを実現する方法の一つが、教材に「しかけ」をつくる「10の方法」。

今大会の講話では、「お手紙 (光村図書 1 年上)」「動物園のじゅうい (光村図書 2 年上)」「うなぎのなぞを追って (光村図書 4 年下)」での授業実践をもとに、「しかけ」の方法や目的、そしてそのポイントについて説明していただきました。講話の内容でも特に、センテンスカードの作成の仕方、学習者主体の授業にするポイントなどなどは、目からウロコの内容でした。

さらに、「Which 型課題」の授業モデルにおける「教材のしかけ」の役割についても紹介していただくとともに、授業をデザインするにあたり、「教材のしかけ」で意識すべき点についてもお話いただきました。

2013 年に『教材に「しかけ」をつくる国語授業 10 の方法』にて紹介された、「教材のしかけ」ですが、その方法も桂先生の手によってますます洗練されており、今後の「教材のしかけ」の可能性を大きく感じさせるものでした。

<第 11 回沖縄大会を振り返って>

今大会のテーマは、「教材に『しかけ』をする意味について考える」。「教材のしかけ」を前面に押し出した内容で、沖縄支部から提案させていただきましたが、提案の中身以上に学びを深めることができたように思えます。なぜなら、桂先生の講話、そして何より参加者の皆様との話し合いを通して、より多くより深く学ぶことができたからです。沖縄支部一同、2021 年も「しかけ」について探求していきたいと考えていますので、皆様からの忌憚なきご意見・ご感想をお待ちしております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。